

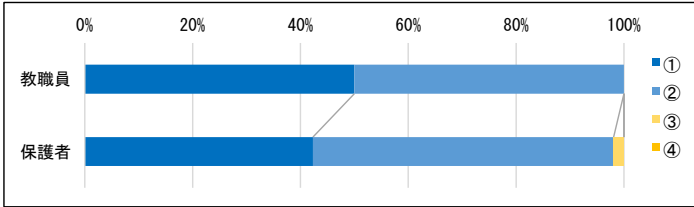
令和5年度 我孫子市立湖北台東小学校 学校評価分析

全体傾向と課題

各項目別の分析（各評価の割合は小数点以下四捨五入で処理をしているため、合計が99%にならないものがありますご了承下さい。）

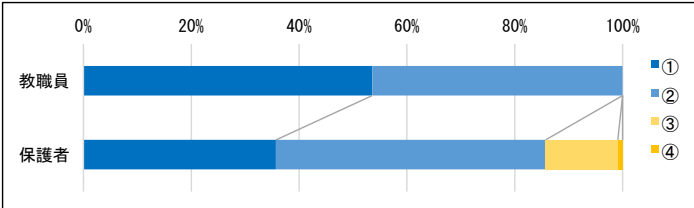
① ② ③ ④
 ① あてはまる
 ② 概ねあてはまる
 ③ あまりあてはまらない
 ④ あてはまらない

No.	項目		R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
						①	②	③	④
1	教職員	学校は、学校教育目標達成のために努力している。	3.50	3.50	3.57	50%	50%	0%	0%
	保護者	学校は、学校教育目標達成のために努力している。	3.40	3.44	3.42	42%	56%	2%	0%



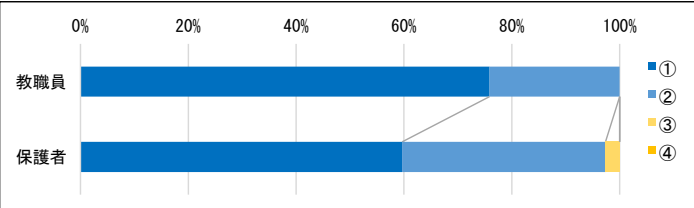
学校教育目標『活力のある学校』（精一杯遊び、互いのことを考え、思いやることのできる、子どもの育成）の達成努力への学校の取り組みに対し、保護者の平均評価は昨年度と同様の値で多くの肯定的な回答をいただくことができた。コロナ前の教育活動に戻りながら、行事等、子どもたちが活躍する場面が増えてきたことも大きな要因と言える。教職員の平均評価も同様の値であった。教職員自身①「あてはまる」の回答が90%というところは改善の余地がある。教職員が更に工夫・改善をしながらのさらに評価が向上するよう、学校教育目標達成のためにこれからも全力を注いでいきたい。

No.	項目		R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
						①	②	③	④
2	教職員	学校は、教育内容を保護者・地域に知らせている。	3.54	3.69	3.76	54%	46%	0%	0%
	保護者	学校は、日頃の教育活動を保護者・地域に知らせている。	3.21	3.54	3.44	36%	50%	13%	1%



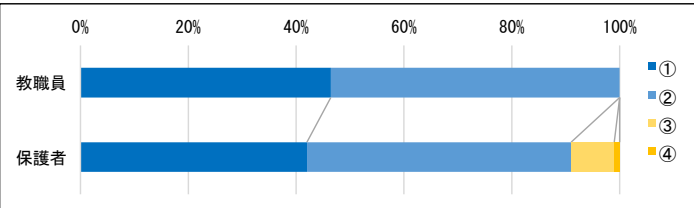
今年度は運動会など行事は入場制限なく実施し、授業参観も年間2日間実施した。毎日学校の児童の様子をホームページで知らせ、またより広く学校の様子を知ってもらうために地域に学校だよりを回覧するようにした。平均評価の値は昨年度と比べ約0.3ポイント下がり、保護者の回答も「③あてはまらない」が13%となっている点は反省していかなければならない。要因としては授業参観や懇談会の機会が少なく、児童の様子を保護者や地域の皆様が見ることができず、教職員と話す機会が少なかったことも大きな要因と考えられる。教育活動を家庭や地域に発信するように創意工夫し努めていかなければならない。

No.	項目		R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
						①	②	③	④
3	教職員	学校は、来校者や保護者に対して親切に対応している。	3.76	3.75	3.57	76%	24%	0%	0%
	保護者	学校は、来校者した保護者に対し丁寧に対応している。	3.57	3.59	3.57	60%	38%	3%	0%



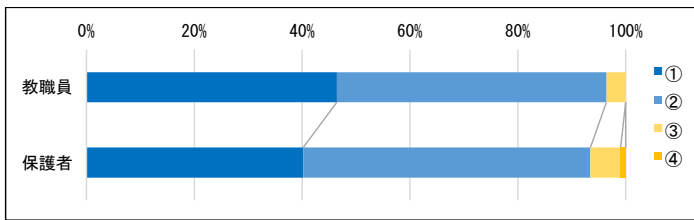
教職員の平均評価は0.1ポイント向上、職員全体が保護者の皆様や地域の皆様に丁寧に丁寧に対応するように心がけた結果であると考えられる。保護者の皆様の平均評価も概ね肯定的な評価をいただくことができた。今後も教職員の挨拶や返答・服装等について常に見直ししながら、保護者や来校者に対し、教職員一同誠意をもって丁寧な対応を心掛けていきたい。

No.	項目		R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
						①	②	③	④
4	教職員	学校は、熱心で分かりやすい授業に努めている。	3.46	3.44	3.45	46%	54%	0%	0%
	保護者	教職員は、分かりやすい授業に努めている。	3.32	3.36	3.39	42%	49%	8%	1%



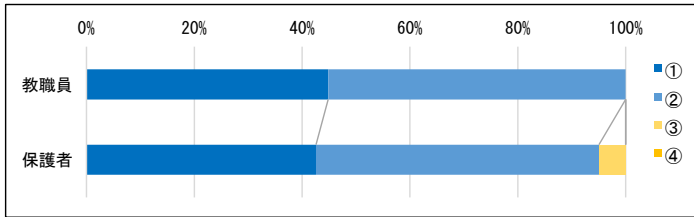
分かりやすい授業に関して平均評価の値は保護者も教職員も昨年度とほぼ同様概ね肯定的な評価であった。今年度も効果的なタブレットの活用の仕方を研究し、全学年において分かりやすい授業の実践のため教職員一同研修した成果がでてきたように思う。しかし、教職員の評価に比べ保護者の皆様の評価は低く、大いに反省していくべきである。学習参観等、授業を見ていただく機会を増やしていく子どもたちや教職員の姿を見ていただく努力も必要である。今後も児童がよくわかり、楽しいと思える授業ができるように更なる校内研修の充実にも努めていきたい。

No.	項目		R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
						①	②	③	④
5	教職員	学校は、体験的な学習を通じて自然や人々と触れ合う機会を設けている。	3.43	3.25	3.10	46%	50%	4%	0%
	保護者	学校は、体験的な学習を通じて自然や人々と触れ合う機会を設けている。	3.33	3.31	3.32	40%	53%	6%	1%



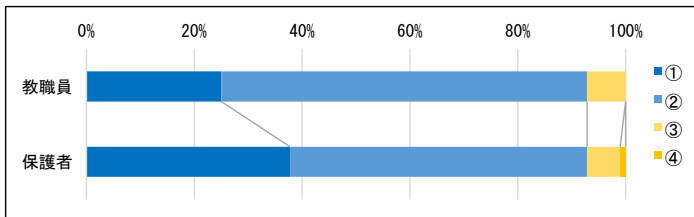
保護者の平均評価は0.02ポイント、教職員は0.18ポイント昨年度より上がった。今年度はPTAや社会福祉協議会等のご協力もあり、音遊びや畑体験、タグラグビー教室や陸上教室等、体験活動を例年より多く実施することができた成果だと言える。授業でも花や野菜を育てたり、生き物を飼育したりする学習も取り入れている。今後も保護者の皆様や地域の皆様を協力をいただきながら、体験的な学習のよさを生かした学習を实践し、児童の「生きる力」の育成に努めていきたい。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
6	教職員 学校は、清掃活動に力を入れて取り組んでいる。	3.45	3.44	3.62	45%	55%	0%	0%
	保護者 学校は、清掃活動に力を入れて取り組んでいる。	3.38	3.35	3.33	43%	52%	5%	0%



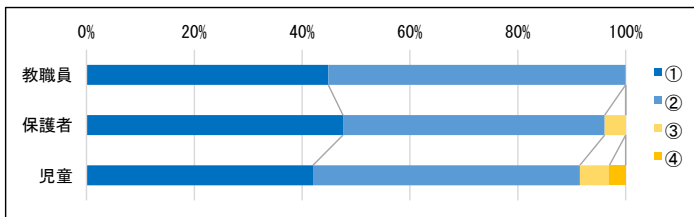
保護者の平均評価が0.03ポイント、教職員は0.01ポイント上がっている。昨年度は一昨年度に比べ教職員の評価が下がっていたが、今年度のポイントが上がっている。各学級担任や教職員が清掃指導を意識を持ってしっかり行った成果だと言える。広い校舎敷地及び校庭等の屋外の敷地全てを十分に清掃していくことは難しい状況だが、児童は清掃活動に対し一生懸命に取り組んでいる。清掃の時間以外にも高学年児童を中心に落ち葉掃き等の奉仕活動に取り組んでいる。今後も清掃活動に加えて学校をきれいに大切に使う児童の姿勢を育てていきたい。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
7	教職員 学校は、防災・安全指導に力を入れて取り組んでいる。	3.18	3.44	3.43	25%	68%	7%	0%
	保護者 学校は、防災・安全指導に力を入れて取り組んでいる。	3.30	3.37	3.31	38%	55%	6%	1%



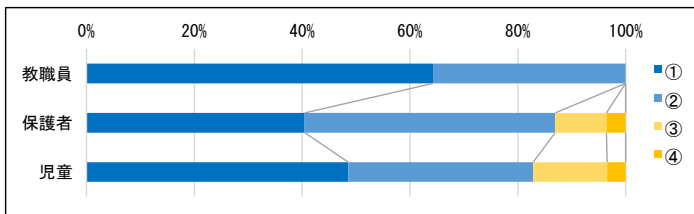
平均評価が教職員は0.26ポイント、保護者は0.07ポイント下がっている。感染予防を含めた安全指導と避難訓練の実施を行ってきたが評価が下がっていることは大いに反省しなければならない。能登半島地震もあり防災研修の実施は喫緊の課題である。消防署や地域の皆様の協力もいただきながら、防災教育を今一度しっかり行っていくとともに、安全指導員の方々の協力も得て登下校指導、交通安全や不審者対策等の安全教育を行い、児童をけがや事故から守るように努めていきたい。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
8	教職員 学校は、生徒指導（挨拶・返事・くつの整理等）に力を入れて取り組んでいる。	3.45	3.13	3.43	45%	55%	0%	0%
	保護者 学校は、生徒指導（挨拶・返事・くつの整理等）に力を入れて取り組んでいる。	3.44	3.43	3.42	48%	49%	4%	0%
	児童 あいさつ・返事・くつの整理整頓をがんばっている。	3.31	3.37	3.70	42%	50%	6%	3%



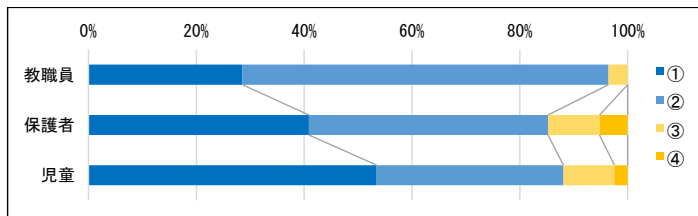
保護者の平均評価はほぼ昨年度と同様であるが、教職員の評価は大きく上がり、児童は0.06ポイント下がった。児童はまだ受け身の児童がいるため「進んでできる挨拶・返事」という点から評価が下がったと考えられる。折に触れ、あいさつをするこの大切さを伝え、自分から気持ちのよいあいさつができるように指導を続けていく必要がある。また、児童の生活指導を行い、基本的な生活態度を身につけられるようにする。また、くつの整理だけではなく、身の回りの整理整頓についても各学級で指導を行い、児童の意識を向上させ、実践できる子を育てていきたい。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
9	教職員 学校は、いじめなど個々に問題を抱える児童に対し必要な支援を行っている。	3.64	3.56	3.70	64%	36%	0%	0%
	保護者 学校は、いじめなど、個々に問題を抱える児童に対し支援を行っている。	3.24	3.28	3.18	40%	46%	10%	4%
	児童 いじめられたり、困ったときに先生はいっしょに考えてくれる。	3.28	3.44	3.47	49%	34%	14%	3%



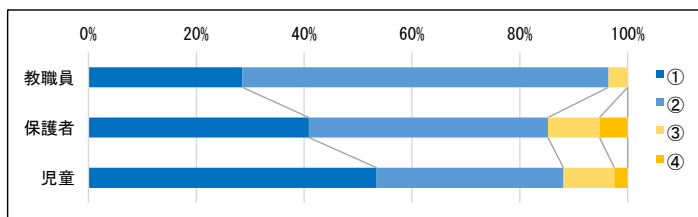
今年度も、いじめアンケートや学校生活アンケートをもとに、気になる児童に関しては個人面談を行った。また、3年生以上の全児童を対象にQ-U検査を実施し、いじめや悩みを抱える児童の早期発見と早期解決に努めた。平均評価では教職員が0.08ポイント上がった一方で、保護者の評価は0.04ポイント、児童の評価は0.16ポイント下がっており教師の平均評価と少し乖離が見られる。児童の評価が下がっていることを受け止め、保護者の皆様と連携を図り、児童一人一人を大切に、真摯に向き合い対応していくことでより一層の信頼関係を築いていかなければならないと考えられる。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
10	教職員 湖北台中学校区では、小中一貫教育の充実に努めている。	3.08	3.06		15%	77%	8%	0%
	保護者 湖北台中学校区では、小中一貫教育の充実に努めている。	2.97	2.94		23%	55%	20%	3%



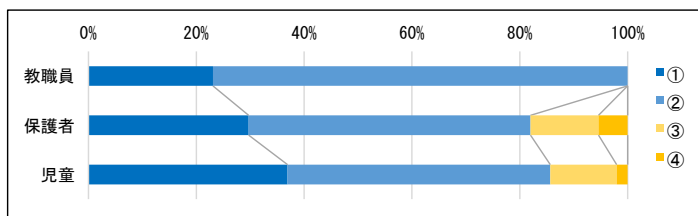
小中一貫教育の充実に関して、保護者の皆様の評価において③「あまりあてはまらない」の項目に20%もの回答があったことは大いに反省しなければならない。毎年、中学校区で3校共同の「教育ミニ集会」を行っているがこうした台中区の共同の取り組みを一層増やし充実を図っていくことが必要である。またこうした取り組みを保護者の皆様に知っていただく努力をしていかなければならないと考えられる。3校の学校運営委員会連携を深め、小中一貫教育としてどのような取り組みを行い、どのような成果があったかを保護者や地域に発信しなければならない。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
11	教職員 児童は、学校に楽しく登校している。	3.25	3.31	3.29	29%	68%	4%	0%
	保護者 お子さんは、学校に楽しく登校している。	3.21	3.45	3.52	41%	44%	10%	5%
	児童 学校に楽しく登校している。	3.39	3.33	3.52	53%	35%	9%	2%



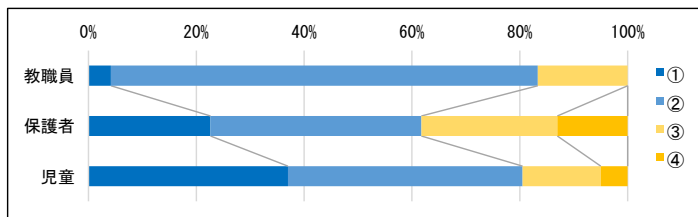
保護者の平均評価は0.24ポイント、児童の評価が0.06ポイント、教職員においても0.06ポイント下がっている。評価③（あまりあてはまらない）④（あてはまらない）を併せて11%の児童が「楽しい」といえない状況であることは重く受け止めなければならない。行事の在り方や内容、学習における指導方法や取り組み方を振り返り、改善していくひつようがある。「よくわかる授業」「居心地のよい学校」「児童が主体となって取り組める学校行事」等の充実を目指し、どの児童にとっても「楽しく登校できる学校づくり」を推進していきたい。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
12	教職員 児童は、熱心に授業に取り組み、学習した内容について理解している。	3.23	3.20	3.19	23%	77%	0%	0%
	保護者 お子さんは、熱心に授業に取り組んでいる。	3.06	3.24	3.34	30%	52%	13%	5%
	児童 熱心に授業に取り組み、学習した内容を理解することができている。	3.21	3.32	3.38	37%	49%	12%	2%



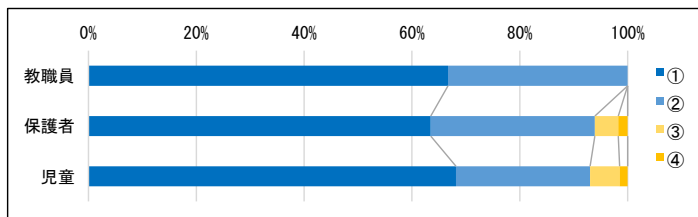
教職員の評価は昨年度と同じく評価①（あてはまる）②（概ねあてはまる）で100%の肯定評価となっており、教室では児童が熱心に授業に取り組んでいることがうかがえる。しかし、保護者や児童の平均評価はそれぞれ0.18ポイント、0.11ポイント下がっている。教職員は児童が学習内容を理解し、自己肯定感を育むため「よくわかる授業」を実践できるように研修に励まなければならない。また、今年度は授業参観等保護者の皆様に学校での子どもたちの学習の様子を見ていただく機会が少なかつたため、来年度は参観を増やし、HPや学級通信等、子どもたちの頑張る姿を学校としても発信する努力をしていかなければならない。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
13	教職員 児童は、宿題や自主学習等の家庭学習を行っている。	2.88	3.13	3.05	4%	79%	17%	0%
	保護者 お子さんは、宿題や自主学習を家で行っている。	2.71	3.30	3.37	23%	39%	25%	13%
	児童 宿題や自主学習など家庭学習を行っている。	3.13	3.34	3.37	37%	44%	15%	5%



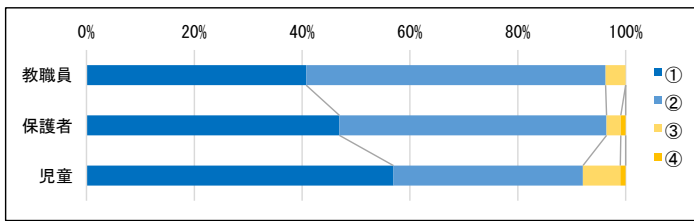
教職員の平均評価は0.25ポイント、保護者のポイントは0.59ポイント、児童は0.21ポイント下がった。教職員、保護者、児童がポイントを下げていることは、学校も家庭との連携を図り取り組んでいかなければならない喫緊の課題と言える。宿題以外の自主学習について学習時間の目安を示したり、学習内容の指導を行ったりして家庭学習の定着を図りたい。タブレットの効果的な学習についても進んで取り入れていく。家庭学習は学校と家庭の連携が重要である。今後も家庭の協力を得ながら十分な成果を上げられるようにしていきたい。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
14	教職員 児童は、学校行事（運動会・校外学習等）に楽しく参加している。	3.67	3.69	3.62	67%	33%	0%	0%
	保護者 お子さんは、学校行事（運動会・校外学習等）に楽しく参加している。	3.56	3.71	3.74	63%	30%	4%	2%
	児童 学校行事に楽しく参加している。	3.60	3.55	3.65	68%	25%	5%	1%



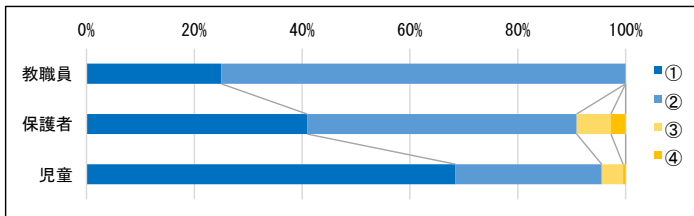
児童の評価は0.05ポイント上がっており、行事ごとに児童が実行委員やその他の役割を果たして頑張った成果だと言える。しかしその反面、教職員は0.02ポイント、保護者は0.15ポイント下がっている。保護者の回答は①②を合わせて93%肯定的な回答をいたしているが、③④の回答が6%。児童も6%が否定的な回答をしていることはしっかりと受け止めなければならない。行事の内容や練習を工夫・改善し、一人一人が活躍できる行事になるように努めていき、児童の自己肯定感や自信を育んでいきたい。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
15	教職員 児童は、社会や学校のルールを守って生活している。	3.37	3.19	3.24	41%	56%	4%	0%
	保護者 お子さんは、社会や学校のルールを守って生活している。	3.42	3.41	3.49	47%	50%	3%	1%
	児童 社会や学校のルールを守って生活している。	3.48	3.53	3.71	57%	35%	7%	1%



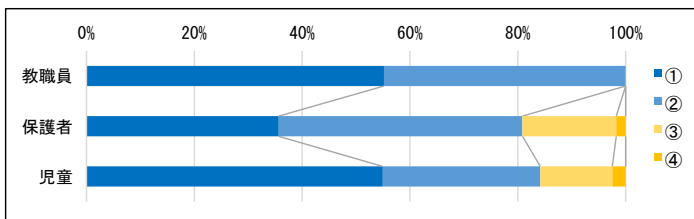
教職員と保護者の平均評価がそれぞれ0.18ポイント、0.01ポイント上がっている。しかし、児童の平均評価は0.05ポイント下がっていることは重く受け止めなければならない。児童の多くは基本的なルールやきまりを守って生活しようとしているが、時折自分の気持ちを優先してしまい、ルールから逸脱してしまうことも稀に見受けられる。これから大人へと育っていく子どもたちに、日常生活指導や安全指導、保健指導等の充実をはかり、社会や学校のルールを守ることの大切さとその必要性をしっかりと指導していきたい。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
16	教職員 児童は、学級や学校で好ましい友達関係を築いている。	3.25	3.27	3.24	25%	75%	0%	0%
	保護者 お子さんは、学級や学校で好ましい友達関係を築いている。	3.29	3.34	3.48	41%	50%	6%	3%
	児童 学校や学級で友だちとなかよくしている。	3.64	3.72	3.78	68%	27%	4%	0%



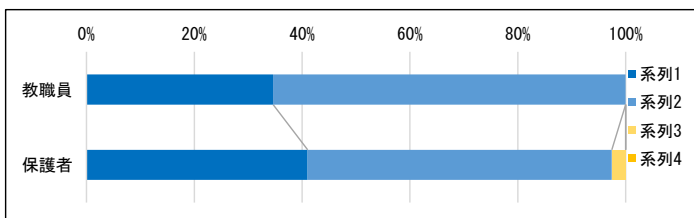
昨年に比べ全ての評価ポイントにおいて、それぞれ教職員0.02ポイント、保護者0.05ポイント、児童0.08ポイント下げている。①②の肯定的な回答をした児童は95%と多く、ほとんどの児童が良好な友だち関係を築いているようである。しかし、③（あまりあてはまらない）④（あてはまらない）の回答が保護者が9%、児童が4%の値を示していることは重く受け止めなければならない。一人一人にしっかりと向き合い、悩みを解決していけるように、スクールカウンセラーや心の相談員を活用した教育相談体制を更に充実させていくとともに、よりよい友だち関係を築いていくためにはどうすればよいかということを各学級で学んでいけるような取り組みを積極的に行っていくべき。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
17	教職員 児童は、外で元気に遊んだり、運動したりしている。	3.55	3.31	3.29	55%	45%	0%	0%
	保護者 お子さんは、外で元気に遊んだり、運動したりしている。	3.15	3.32	3.42	36%	45%	17%	2%
	児童 外で元気にあそんだり、運動したりしている。	3.37	3.35	3.44	55%	29%	13%	2%



昨年度に比べ、平均評価は保護者は0.17ポイント下げたが、教職員は0.24ポイント、児童は0.02ポイント上昇している。本校では多くの児童が休み時間には校庭で元気に遊んでいるが、その一方で教室や図書室で毎日過ごしている児童もおり、運動の好きな子と嫌いな子の2極化が進んでいる傾向にある。運動が好きな子どもを増やしていくためにも、日常の体育科授業の充実を図り、もみじ交流、業間のマラソンやなわとびの取り組みなどを通して児童の運動や遊びの時間を保障し、児童の体力向上にも努めていきたい。

No.	項目	R05年度 平均評価	R04年度	R03年度	評価別割合			
					①	②	③	④
18	教職員 学校の教職員はICTを積極的に活用し、楽しくわかりやすい授業づくりに努めている。	3.35			35%	65%	0%	0%
	保護者 学校の教職員はICTを積極的に活用し、楽しくわかりやすい授業づくりに努めている。	3.38			41%	56%	3%	0%



今年度、新たに設けた質問事項である。東小教職員は一人1台端末の活用が始まって依頼、校内研修を積み重ね、ICTの有意義な活用を研究してきた。こうした取り組みの成果が保護者の肯定的な回答①（あてはまる）②（概ねあてはまる）に97%、教職員100%という結果につながったと考えられる。これからも、子どもたちのために楽しく深い学びができるように教職員一同精進していかなければならない。

学校運営協議会委員（学校関係者）の意見とまとめ

- No.12, No.13が気になりました。児童が理解できていない科目について、家庭学習で補うのは難しいと思われる。以前に木曜日？は居残りをして理解できない部分を友達同士で教え合ったり、宿題をやっていた様に思います。現在はどうなっているのでしょうか？※月に2回湖北台市民センターにて金曜日17時から20時ころまで無料で元教員の方々が個別に教えています。また、夏休みに川村学園の学生がボランティアで勉強を教えていただくことも出来ます。
- No.9, Q-U検査はとても重要だと思います。
- No.7, 防災訓練は児童の動きが素晴らしいと感じています。
- コロナ前の活動に戻る中、学校は目標達成のため努力していると感じている。
- No.11, 楽しく学校に登校できるようにすることは重要であると感じる。
- 学校での子どもたちの様子を知る手段として、これまでのコロナ禍で保護者は学校のHPから情報を得ていたが、今後は子どもたちの様子をリアルに知ることのできる学習参観の回数を増やしていくことや時間の拡大、保護者会・懇談会の実施をお願いしたい。
- 小中一貫教育の充実としての「教育ミニ集会」や、学校での保護者によるボランティア活動（本の読み聞かせや落ち葉掃き等）を活性化し活用する事によって学校と保護者のコミュニケーションを強化し、保護者が学校の「お客様化」せずに、子どもたちが楽しく登校できるように一緒に目指していきたい。
- No.2や自由記述からもわかるように、学校と保護者とのコミュニケーション不足が大きな課題だと思う。コロナ明けで学校がどのような方針、カリキュラムで進めていくのかを保護者に知ってもらい、また先生方の紹介、クラスでの対応等々話をしていくことを優先すべきだと思う。
- No.10の小中一貫教育については、中学校で東小・西小と一緒にあたり違和感なく一緒に生活ができるように、6年生のうちから少しずつ触れ合える機会が必要かと思う。
- 児童と先生で問題があった時の対応も大切だと思う。確実な事実確認、適切な方法での解決。みんなが楽しく学校に来られるよう期待しています。とにかく良いことも悪いことも情報発信が必要だと思う。先生たちの素晴らしいことも伝えていきたいと思う。
- 全体的に肯定的な評価の割合が高く良いと思う。No.2「学校は教育内容や活動を保護者や地域に知らせている」の項目、保護者や教職員の認識の差が何なのか。行事の報告の他にも学校の考え方や方針を伝えたり、保護者の欲しい情報を発信するなど工夫が必要かと思う。
- No.12についても教職員と保護者の認識の差が大きい。授業内だけで学習内容が理解できなければ、保護者や地域の方の力を借りて学習支援を行うことも1つの解決策かと思う。様々な方法で学校と保護者、地域の距離を縮め、互いに理解協力ができればより良い学校、地域になるのではないかと思う。
- アンケート全般から、教職員の教育に対する意識の高さと意気込みを強く感じた。朝早くから夜遅くまで、日々の教職員の活動には頭が下がります。若い先生が多い中、綿密な教材研究やICTを活用した授業計画などをしっかりしていて素晴らしいと思う。保護者の皆様においても、学校に対する関心の高さと協力的かつ理解度の高さも感心した。
- 感染症対策の一環として、保護者会等、担任とのコミュニケーションの場が少なかったことで気持ちの行き違いもあったようであるが、来年からは機会が増えるであろうと思われるので改善されるかと思う。
- 今後子どもたちのために、開かれた学校、地域の人材を生かした活動、ICTの活用の推進をお願いしたい。